

「おおつ学」への参画

「おおつ学」とは、大津市の社会教育委員の会議(委員長:神部純一社会連携研究センター長)で2年かけて議論したものを具体化した事業であり、2015(平成27)年10月29日(木)に開校した。

「おおつ学」の定義は以下の通りである。

「おおつ学」とは、大津に関する学習を通して、地域への関心を高め、地域を愛する心を育み、地域づくりに貢献する人を育てる事業である。

「おおつ学」は大きく、「基礎講座」と「実践講座」、そしてこの2つの講座の橋渡しの役割を果たす「交流会」から構成される。



「基礎講座」では、市内で実施されている大津に関わるあらゆる分野の学びを、1冊の情報誌にまとめて、みなさんに提供することにした。受講者は、この情報誌を手にも、自分の関心のある講座を自由に受講することで、大津の魅力に触れることができる。受講者の「実践講座」は、いろいろな大津の魅力にふれた人が、何か自分にもできることはないか、あるいは何かしたいと思ったときに、実際に活動するために必要な知識や技能を提供するための講座である。

そして「基礎講座」と「実践講座」の他に、共に大津を学ぶ人同士の交流の機会をいろいろ考えてみたいと思っている。例えば、大津再発見ツアーと称して、個人ではふだん見学できない、体験できない場所をめぐったり、実際に地域づくりまちづくりに関わっている人との交流の機会を設けてみたり、いろいろな機会を通じて、受講者同士の絆づくりを進めていきたいと考えている。

社会連携研究センターでは、これまで滋賀大学「環境学習支援士」会との共催で実施してきた環境シンポジウムを、今年度からこの「おおつ学」の一講座として開催することにした。

今年度のテーマは、「私たちと森林の関わりあい～大津の森を守る～」とし、2016(平成28)年11月27日(日)に、大津サテライトにおいて実施した。講演者及び講演内容は以下のとおりである。

基調講演「森の文明論—森の意義・重要性を文明論から考えてみよう」

国際日本文化研究センター名誉教授 安田喜憲氏

講演1:「滋賀県の森林の現況と今後の森林管理について」

琵琶湖環境部森林政策課副参事 長崎泰則氏

講演2:「南部森林組合の仕事と市民の協力について」

滋賀南部森林組合理事 玉木圭介氏

当日の参加者は、72名であった。シンポジウム後のアンケートでは、86.3%の参加者が「満足した」と回答しており、「森林の現状が良く理解できた。ヨーロッパが世界に影響を与えたことを考えさせられた」、「森の意義・重要性について面白く興味をもって身近に聞けた」等の感想が寄せられた。



(文責 教授 神部 純一)